

前期に計上した貸倒引当金を取り崩すときは？



慣れないうちは取引があったとき、どんな勘定科目で処理すればよいのか、悩むケースもあるでしょう。そうした勘定科目の取扱いについて、新人さんと一緒に、事例をもとに学んでいきましょう。

新人さん：前期末にあった売掛金がすべて回収できてよかったですね。

先輩：うん。景気は上向いてきているとはいえ、コロナ禍で弱った経営基盤が回復していない会社も多いだろうからね。

新人さん：はい。回収できてこそその販売ですものね。ところで、前期の決算の時に回収不能のリスクに備えて計上した「貸倒引当金」は、今度の決算時はどうしたらいいのですか？

先輩：無事に回収できたわけだから、基本的には1度取り崩さないとイケないね。

新人さん：なるほど。もともと前期末の売掛金に対して設定したわけですから、それを1回取り崩して、今期末は今期末で設定し直すってということですね。

先輩：そのとおり。

●解説

「貸倒引当金戻入益」とは、前期末に計上した貸倒引当金の勘定残高を今期末の決算時に取り崩すために使用

する勘定科目です。毎年度の決算時に貸倒引当金の設定をしますが、毎年度、貸倒れが発生するとは限りませんので、設定した貸倒引当金の勘定残高が残っている場合があります。決算時にその額を取り崩して、今期末の売掛金等の金銭債権に対して、あらたに貸倒引当金を計上します。

貸倒引当金の繰入方法には、①^{あらいがえ}洗替法と②差額補充法があります。

①洗替法では、前期末に計上した「貸倒引当金」の勘定残高が残っている場合、その全額を「貸倒引当金戻入益」の勘定科目を使って取り崩し、今期末計上分を「貸倒引当金繰入額」として計上する方法です。

一方、②差額補充法では、前期末に計上した「貸倒引当金」の勘定残高より、今期末に計上する金額が多い場合、その差額を「貸倒引当金繰入額」として補充し、逆に少ない場合はその差額を「貸倒引当金戻入益」として取り崩します。

なお、過年度に「貸倒損失」として処理された売掛金等の金銭債権が、当期に回収された場合、その回収額は「償却債権取立益」の勘定科目を使って処理します。▲

ケース1

貸倒引当金を戻入れする場合

①洗替法：前期末に計上した貸倒引当金30,000円を戻し入れ、今期末の売掛金に対して貸倒引当金20,000円を計上した。

【借方】 貸倒引当金 30,000
貸倒引当金繰入額 20,000

【貸方】 貸倒引当金戻入益 30,000
貸倒引当金 20,000

②差額補充法：前期末に貸倒引当金30,000円を計上したが、今期末の売掛金に対しては貸倒引当金20,000円を計上した。

【借方】 貸倒引当金 10,000

【貸方】 貸倒引当金戻入益 10,000

ケース2

貸倒損失として処理した債権が回収された場合

回収の見込みがないため、過年度に貸倒損失として処理した売掛金100,000円のうち10,000円が普通預金口座に振り込まれた。

【借方】 普通預金 10,000

【貸方】 償却債権取立益 10,000